

頁	誤	正
p.7 下から4行目	大きさ	重さ
p.8 下から6行目	$\Delta_k$ が超伝導ギャップ	$\Delta_k$ が $(\mathbf{k}, s)$ と $(-\mathbf{k}, -s)$ の電子対振幅 $b_k = \langle c_{-k\downarrow} c_{k\uparrow} \rangle$ に比例したギャップ
p.25 図3-8		説明文「-が起こっている <sup>[16]</sup> 」の後に次を追加, 数字はそこで流れている 電流密度 (A/cm <sup>-2</sup> ) .
p.43 図5-3の右図	図中のSCおよび破線	削除
p.61 (5.6)の右辺	$1/(2\pi\hbar) \int dt \exp i(\mathbf{Q}\mathbf{r} - \omega t)$ $\langle S_{m\perp\alpha}(0) \cdot S_{n\perp\beta}(t) \rangle$	$1/(2\pi\hbar) \int d\mathbf{r} \int dt \exp i(\mathbf{Q}\mathbf{r} - \omega t)$ $\langle S_{m\perp\alpha}(0) \cdot S_{n\perp\beta}(t) \rangle$ ( $r$ は $m, n$ 位置の距離)
p.66 図5-18の右図	$E_f = \underline{147}$ meV	$E_f = 14.7$ meV
p.66 図5-19 ”	$T = 300$ K $E_f = \underline{147}$ meV	$T = 300$ K $E_f = 14.7$ meV
p.69 図5-21	図中の温度の上下順が逆	
p.73 下から1行目	<u>NbBaCu<sub>3</sub>O<sub>6+x</sub></u>	NdBa <sub>2</sub> Cu <sub>3</sub> O <sub>6+x</sub>
p.77 下から4行目	整合	不整合
p.78 下から8行目	( $J_Q$ は $\mathbf{Q} = (1/2, 1/2)$ で最大値 $-2J_0$ を持つことに注意)	削除
p.81 下から2行目	La <sub>2-x</sub> Ba <sub>x</sub> CuO <sub>4-x</sub> 曲線	La <sub>2-x</sub> Ba <sub>x</sub> CuO <sub>4</sub> の $T_c-x$ 曲線

p.83 図5-36の説明	下の図の横軸目盛りが隠れているのが誤り	(説明文の最後尾に以下の文を加える) 下の図の横軸目盛りは-0.2 ~0.2
p.90 (5.11)の最右辺	$A\chi(0, 0)/N_g\mu_B$	$A\chi(0, 0)/Ng\mu_B$ (gはg因子)
p.90 (5.13)の最右辺	$ A_{\mathbf{Q}^{zz}} ^4\chi'(\mathbf{Q}, 0)$	$\sum  A_{\mathbf{Q}^{zz}} ^4\chi'(\mathbf{Q}, 0)^2$
p.91 図5-42の右上部分	O(2, 3) of $1/(T_1 T)$ Cu(2) of $1/(T_1 T)$	$1/(T_1 T)$ of O(2, 3) $1/(T_1 T)$ of Cu(2)
p.92 10行目の最後の部分	(5.8a)式と	(5.8a)–(5.8c)式と
p.92 (5.14)式の第一行目	$1/T_1 T \propto \sum \int \chi''(\mathbf{Q}, \omega_0)/\omega_0 \propto \int \chi(\mathbf{Q})/\Gamma_{\mathbf{Q}} d\mathbf{Q}$	$1/T_1 T \propto \sum \chi''(\mathbf{Q}, \omega_0)/\omega_0 \propto \int \chi(\mathbf{Q})/\Gamma_{\mathbf{Q}} d\mathbf{Q}$
p.95 図5-44	0.19	0.10
p.107 6行目の後に右の欄の文を追加.		実際には, $T_{SG}$ と $T_c$ と間の温度域を詳細に調べたいいくつかの報告があるものの, 超伝導発現に関する概容は上記の相図で表されるものと考えられる.
p.120 図6-3 (b)	多結晶	単結晶
p.132 図6-13 解説 2行目から4行目	(非磁性不純物による対破壊効果を考えるとき, $T_c$ ではなく $ dT_c/dx T_{c0}$ を考えるのは間違いなので注意)	削除
p.144 2,5,8行目	$\text{LnFeAsO}_{1-x}\text{H}_x$	$\text{LaFeAsO}_{1-x}\text{H}_x$
p.152 下から10行目	$\Delta_{\Gamma} \Delta_M < 0$	$\Delta_{\Gamma} \Delta_M > 0$
p.153 3行目	散乱強度–散乱ベクトル面	散乱エネルギー–散乱ベクトル平面
p.160 下から3行目	$I(\mathbf{Q}_M, \omega) \propto \chi''(\mathbf{Q}, \omega)/(n+1)$	$I(\mathbf{Q}_M, \omega) \propto \chi''(\mathbf{Q}_M, \omega) \times (n+1)$
p.179 12行目	強磁性 ( $F ; J' > 0$ )	強磁性 ( $F ; J' < 0$ )

p.180 図7-5の説明	(2行目) 温度変化 <sup>[20]</sup> (3行目) 温度依存性 <sup>[21]</sup>	温度変化 <sup>[19]</sup> 温度依存性 <sup>[20][21]</sup>
p.205 10-15行目	10-15行目を削除し右に置き換える	これまで、Nd <sup>3+</sup> 4f電子が持つ状態、特にクラーマース2重項 <sup>[48]</sup> について特に言及しないまま（等価な）議論を進めてきた。中性子非弾性散乱では、低温で $\omega \sim 0.48$ meVに分散の無い磁気励起が現れるので、現実の系では基底状態近くでの波動関数が、どうなっているかの詳細も問題になりそうだが、その理解にはMo伝導電子との相互作用等、何らかの効果を考慮しなければならないので省略する。
p.240 1行目	_ _ _ (1999)237.	_ _ _ (1999)237 ; <i>ibid</i> K. Kodama <i>et al.</i> <b>67</b> (1998) 57.